



社会人韓国語中級学習者に見られる誤用分析：
意味論的誤用を中心に

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 河, 正一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00017334

社会人韓国語中級学習者に見られる誤用分析 —意味論的誤用を中心に—

河 正一

1. はじめに

従来の研究対象としての韓国語学習者と言えば、主に大学生であり、このことは、韓国語学習者の大半が大学生であったことはもとより、研究者にとって時間的・費用的に最も効率よく調査のできる対象も大学生であったためであろう。

ところが、韓流の広がりと共に、韓国語学習者も多様化してきた。さらに、文部科学省の生涯学習の推進と相まって、多くの官公署や大学における生涯学習センターの活性化が追い風となり、社会人の韓国語学習の敷居も低くなり、社会人学習者が増加している。

本稿は、生涯学習の一環として行われた授業の社会人韓国語中級学習者の作文に見られる誤用分析を語彙と表現に分け、各々の誤用の分布と形態について、定量的分析を通して考察する。

2. 先行研究

これまでの誤用研究は、概ね、誤用分析の基準を提示した研究（이정희2002、김유정2005など）や研究方法を提示した研究（김민애2006、유형선2008など）、言語圏別の学習者の誤用を分析した研究（김정숙・남기춘2002、김정은2004、印2016、山田ほか2018など）などに分類することができる。

김상수・송향근（2006：8）によれば、韓国語教育の言語圏別の研究動向は、日本語圏＞英語圏＞中国語圏＞ロシア語圏＞ベトナム語圏の順である。日本語圏の場合は、韓国国内における日本語母語話者を対象とした研究が多かった。ところが、学習環境や学習教材の影響が目標言語の算出に大きく作用するという指摘もあり（김선호2009、이지연2012）¹、近年、日本国内における研究も盛んに行われつつある。ただし、言語圏や国内外を問わず、大学生を対象とした研究が主流である。

研究方法では、研究目的に応じて学習者に自然なものを選ばせるか、もしくは書かせる方法や学習者のコーパスを用いる方法、自然な作文を書かせる方法などが用いられている。

分析方法では、学習者のレベルによって現れる誤用の例を取り上げ、正用と照らし合わせながらそれらの原因や教授法を論じている。例えば、김미옥（2003）は、言語圏別の学習者に見られる語彙誤用をレベルごとに分類し、その特徴を論じている。山

田ほか（2018）は、「문법이나 단어나<를> 기억하지<외우지> 않으면 안되죠」における 기억하다/외우다の使い分けを取り上げ、教授法を論じている。

誤用は、中間言語として、学習者の今の発達段階を示すものであり、そういう意味で、上記の分析方法は有効である。しかし、学習者の発達段階の全体像や誤用の原因を把握するためには²、従来の分析方法より、詳細な分析方法が必要であると思われる。

そこで、本稿では、誤用だけでなく、誤用に対する正用もレベル別に分類し（正用と誤用の両方を初級・中級・上級に分類する）、語彙や文型の分布及び形態に基づいて考察を行う。

3. 研究方法

3-1. 作文資料

社会人中級学習者を対象に、自由なテーマで作文を書かせた（辞書使用可）。ただし、学習者の表現意図を明確に把握すると共に、誤用の原因を明らかにする目的として、韓国語作文と共に日本語訳も依頼した。

詳細は、以下の通りである。

- ・人数：11名（実践女子大学生涯センター）
- ・年代：20代～70代
- ・学習期間：2年～9年
- ・レベル：中級（できる韓国語中級Ⅰ）
- ・収集期間：2016年4月～2017年9月
- ・作文数：185本：1本あたり400字～1000字

3-2. 分類基準

誤用の分類について、이정희（2002：181）は、文法論的誤用（助詞・語尾・時制・敬語・補助用言・語順）、意味論的誤用（意味関係に関わる語彙）、語用論的誤用（文脈に関わる談話）、発音の誤用に分類している。

本稿では、紙幅上、意味論的誤用を語彙と表現に分けて分析するがゆえに、語彙と表現について、以下の基準で分類することにした。

- ・語彙の誤用：自立語³に見られる誤用として、主に意味のずれや多義性、類語、対応する語彙の有無に関わる。
- ・表現の誤用：2つ以上の自立語が固定的に組み合わせあって一定の意味を表す慣用句⁴や文型に見られる誤用として、主に対応する表現のずれや有無に関わる。

ただし、語彙及び表現に見られる誤用のうち、分かち書きは、分析対象から除外することにした⁵。

3-3. 分析方法

誤用研究は、学習者がおかす誤り、すなわちどのような誤りがあるのか、なぜ誤りをするのかなどといった第二言語習得における理論的アプローチを通じ、いずれは実践的アプローチとして学習者の誤りを防ぐための教授法・教材作成にその目的がある。

そこで、誤用を取り出し、以下の方法で分類した。

- ①正用と誤用の両方をレベル別に分類する。
- ②品詞別の分布と内訳を分類する。
- ③レベル別の誤用の特徴や原因を分類する。

上記の方法を用いるのは、まず、正用と誤用の両方を詳細に照らし合わせることで、学習者の習得状況を明確に示すためである。その上、既習語彙及び未習語彙や文型の使い方にどのような方略が用いられるかを把握するためである。つまり、中間言語としての発達段階の全体像から、どのような誤りがあるのか、どのような方略が用いられるのか、さらに、学習者の方略によって生じる誤用の原因とは何かを究明するのが目的である。

4. 誤用の定量的分析

作文に見られる誤用の分布は、表1の通りである。

表1. 誤用の分布

	数	%
語彙の誤用	189	72.14
表現の誤用	73	27.86
合計	262	100

4-1. 語彙

ハングル能力検定協会（2016）『ハン検公式ガイド新装版合格トウミ初級編・中級編・上級編』に基づき、正用と誤用の両方の語彙をレベル別に分類した。詳細は、下記の表2である。

表2. 誤用の分布

正用	誤用	数	%
初級	初級	80	42.33
初級	中級	34	17.99
初級	上級	5	2.65
中級	初級	28	14.81
中級	中級	17	8.99
中級	上級	8	4.23
上級	初級	3	1.59
上級	中級	10	5.29
上級	上級	4	2.12
合計		189	100

表2を見ると、今回の調査対象が中級学習者にもかかわらず、正用の初級と誤用の初級の組み合わせの誤用が最も多い80件（42.33%）であり、全体では「初級119件（62.96%）＞中級53件（28.04%）＞上級17件（9%）」であった。

この結果は、次の2点を示唆する。まず、今回の社会人韓国語中級学習者は、学習期間は長いものの、いまだに初級レベルの未習語彙が多いということである。一概には言えないが、社会人学習者としての学習動機や学習目標、学習期間の長さ、モチベーション、加齢に伴う学習能力の低下などが総合的に絡んだ結果であろう。

もう1つは、使用頻度とも関わりは持つものの、語彙数を考慮すると、当然、「初級＜中級＜上級」となる。しかし、誤用は、その逆さまで現れ、しかも初級における正用の初級と誤用の初級の組み合わせが最も多い。ということは、学習者は、積極的に初級レベルの語彙（既習語彙）を使用していた結果、誤用が多く現れたが、語彙レベルの高い中上級もしくは未習語彙はあまり使用していなかったということを示唆する。つまり、学習者の方略として、既習語彙は積極的に使おうとするが、未習語彙は回避しようとする方略が用いられたと考えられる（このことは、5節で論じる誤用の形態とも関わっている）⁶。

そして、誤用の品詞の分布と内訳は、表3と表4である。

表3. 初級における品詞の分布

誤用	順序	合計
初級	名詞28＞冠形詞25＞動詞17＞副詞7＞形容詞3	80件
中級	名詞12＞動詞10＞副詞8＞形容詞2＞冠形詞1＝助詞1 ⁷	34件
上級	動詞2＞名詞1＝副詞1＝形容詞1	5件
合計	名詞41＞動詞29＞冠形詞26＞副詞16＞形容詞6＞助詞1	119件

表4. 初級における品詞の内訳

名詞	初	안에[중에], 시험[시험], 이번[다음], 것[쪽], 일[날], 것[일], 산문[산입구], 국[나라]など
	中	현재[지금], 주인[남편], 최후의[마지막], 신청[연락], 외[밖], 말거리[이야기], 한편[친구]など
	上	반신[대답]
動詞	初	받고[얻어서], 시작했습니다[시작했습니다], 들면[잡으면], 주었으면[받았으면], 내고[꺼내고], 끝났어요[끝났어요]など
	中	성장하고[커서], 행해졌어요[열렸어요], 들릴 수[들을 수], 같고[바꾸고], 빠지고[떨어져], 고쳐지고[나은]など
	上	분할해[나누어], 수정되다[보내다]
冠形詞	初	몇[여러], 다섯위[오위], 벌써[어느], 저[그]など
	中	달리도[그밖에]
	上	なし
副詞	初	또[다시], 잘[매우], 적고[조금], 가장[제일]など
	中	어찌다가[가끔], 대개[거의], 나중[아직], 완전히[전혀]など
	上	은은한[천천히]
形容詞	初	먼[긴], 밑의[작은], 시려졌다[추워졌다]
	中	다행다[좋았다], 우습고[재미있고]
	上	어스레하고[어둡고]
助詞	初	なし
	中	측에[으로부터]
	上	なし

初級全体の誤用は119件（62.96％）で、初級が80件（42.33％）、中級が34件（17.99％）、上級が5件（2.65％）である。そして、品詞の分布は、「名詞41件（34.45％）＞動詞29件（24.37％）＞冠形詞26件（21.85％）＞副詞16件（13.45％）＞形容詞6件（5.04％）＞助詞1件（0.84％）」である。

中級における誤用の分布と内訳は、表5と表6である。

表5. 中級における品詞の分布

誤用	順序	合計
初級	名詞10＞動詞 6 = 副詞 6 ＞冠形詞 5 ＞形容詞 1	28件
中級	名詞 6 ＞動詞 5 = 副詞 5 ＞形容詞 1	17件
上級	名詞 3 = 動詞 3 ＞副詞 2	8件
合計	名詞19＞動詞14＞副詞13＞冠形詞 5 ＞形容詞 2	53件

表6. 中級における品詞の内訳

名詞	初	자기도[자신도], 하루중[하루종일], 때[당시], 년[해], 길의역[휴게소], 회화[대화]など
	中	부활[서클], 한편[동료], 당선[당첨]など
	上	비력[무력감], 전회[전환점], 준비[지출]
動詞	初	찾아서[발견해서], 돌아가고[되돌아 가고], 받아서[맞이하러], 생겨난[태어난]など
	中	만지는[닿는], 비웠어요[널었어요], 받아들이다[도입되다], 알아차려보면[되돌아보면]など
	上	끊어지는[거부하는], 나다[않다], 물려주고[양보해서]
冠形詞	初	한번째[첫 번째], 한 더 것은[한 가지는], 긴[오랜]など
	中	치근치근한[귀찮은]
	上	なし
副詞	初	계속[이어서], 자기로[스스로], 곧[드디어], 매우[좀처럼], 매우[너무나도], 세계[깊이]
	中	무난히[무사히], 깔끔하게[제대로], 단단한[제대로], 별로[그다지], 상당히[좀처럼]
	上	쑥쑥[쑥쑥], 쉽사리[좀처럼]
形容詞	初	좋았어요[다행이었어요] ⁸
	中	치근치근한[귀찮은]
	上	なし

中級全体の誤用は53件（28.04％）で、初級が28件（14.81％）、中級が17件（8.99％）、上級が8件（4.23％）であった。品詞の分布は、「名詞19件（35.85％）＞動詞14件（26.42％）＞副詞13件（24.53％）＞冠形詞5件（9.43％）＞形容詞2件（3.77％）」であり、冠形詞を除けば、初級と同様のパターンが見られる。また、正用の中級と誤用の初級の組み合わせが最も多かった。

上級における誤用の分布と内訳は、表7と表8である。

表7. 上級における品詞の分布

誤用	順序	合計
初級	動詞 2 > 名詞 1	3件
中級	動詞 4 > 名詞 3 > 形容詞 2 > 副詞 1	10件
上級	名詞 3 > 副詞 1	4件
合計	名詞 7 > 動詞 6 > 副詞 2 = 形容詞 2	17件

表 8. 上級における品詞の内訳

名詞	初	인사상[연하장]
	中	간후[개호], 자신국[자국], 찬전쟁[냉전]
	上	미답지못하기를[불신감], 분간[분열], 질척질척[뒤죽박죽]
動詞	初	버려서[단련해서], 느꼈어요[통감했어요]
	中	빼기도하고[제거하기도], 사정했지만[매입되어서], 개다[측정했다], 흘려지네요[떠내려가네요]
	上	なし
副詞	初	なし
	中	풍부히[풍족히]
	上	내키지않고[취엄취엄]
形容詞	初	なし
	中	상쾌해지다[홀가분하다], 시원해 됐어요[개운해졌어요]
	上	なし

上級全体の誤用は、17件（9％）で、初級が3件（1.59％）、中級が10件（5.29％）、上級が4件（2.12％）であり、正用の上級と誤用の中級の組み合わせが最も多かった。また、品詞の分布は、「名詞7件（41.08％）＞動詞6件（35.29％）＞副詞2件（11.76％）＝形容詞2件（11.76％）」であった。

誤用全体における品詞の分布は、「名詞＋冠形詞98件（51.85％：名詞67件35.45％、冠形詞31件16.4％）＞動詞49件（25.93％）＞副詞31件（16.4％）＞形容詞10件（5.29％）＞助詞1件（0.53％）」である。

金田一ほか（編）（2011）『新選国語辞典、第九版』の収録語は、名詞が80.13％、動詞が9.1％、副詞が2.46％、形容動詞が1.98％、形容詞が1.21％である。勿論、上記の結果は、今回の調査結果に限ったものであるものの、形容詞の誤用が最も少ないという点の特徴である。ところが、日本語の語彙分布からもわかるように、形容動詞と形容詞を合わせた数が副詞より多いにも関わらず、形容詞の誤用が最も少なかったという結果は予想外であった。

副詞の誤用の多くは、자기로[스스로]のような意味のずれというより、또[다시]、가장[제일]、곧[드디어]、별로[그다지]などの類語であった。ゆえに、副詞の類語に対する教授法はもとより、誤用の原因として、社会人中級学習者にとって副詞の習得が不十分であったためなのか、もしくは形容詞は多義語や類語、意味のずれが副詞に比べて少ないことから起因した結果なのか、今後さらに調査が必要である。

4-2. 表現

表現の誤用の詳細は、表9と表10である。

表9. 表現の分布

正用	誤用	数	%
初級	初級	29	39.73
初級	中級	10	13.7
初級	上級	0	0
中級	初級	14	19.18
中級	中級	13	17.81
中級	上級	2	2.74
上級	初級	3	4.11
上級	中級	1	1.37
上級	上級	1	1.37
合計		73	100

表10. 上級における品詞の内訳

初級	初級	낮잡 했다[잡다], 박수를 했다[박수를 쳤다], 박수를 생겼다[박수가 일어났다], 느낌이 했다[느낌이 들었다], 큰일이었다[힘들었다]など
	中級	눈치를 쳤어다[알게 되었다], 북쪽으로 다가간 도중[북쪽으로부터 중간에], 집만 말고[집만 아니라], 바빴는데[꽃을 받고 있어는데]など
	上級	なし
中級	初級	환성을 올렸어요[질렸어요], 얼굴을 모으는[마주치는] 알아채니까 [정신을 차려보니까], 자연이 많고[풍부하고]など
	中級	즐거움입니다[기대되어 집니다], 대단한 것은 아니어서[큰 피해가 없어서], 신체에 견딘다[반응한다], 키우고 받은[키워 준]など
	上級	낙오자데로[부족하지만], 여론 짓기 위하면[여론을 형성하기 위해서]
上級	初級	가르쳐받고[알려줘서], 바람 넣음 받은[선동되어진], 또 하고 있는 [이어져 온]
	中級	역병을 해산시키기[퇴치시키기]
	上級	몸을 허물어트려서[몸이 나빠져서]

表現の分布は、「初級39件（53.42%）＞中級29件（39.73%）＞上級5件（6.85%）」であった。初級表現は、「初級29件（39.73%）＞中級10件（13.7%）＞上級0件（0%）」で、中級表現は、「初級14件（19.18%）＞中級13件（17.81%）＞上級2件（2.74%）」で、上級表現は、「初級3件（4.11%）＞中級1件（1.37%）＝上級1件（1.37%）」であった。とりわけ、正用の初級と誤用の初級の組み合わせが、29件（39.73%）であり、全体の中での初級の誤用は、39件で53.42%を占めている。語彙の誤用と同じく初級レベルの未習表現が目立つが、このことは、初級レベルの未習語彙が表現レベルまでに影

響を及ぼした結果だと考えられる。

5. 誤用の形態

5-1. 語彙

語彙における誤用の特徴は、下記の表11の通りである。

表11. 語彙における誤用の特徴

レベル		分布
初級	初級	単純ミス29 (数詞16込み) > ずれ18 > 類語17 > 多義語16
	中級	類語18 > 多義語 7 > ずれ 5 > 単純ミス 4
	上級	類語 3 > ずれ 1 = 多義語 1
中級	初級	ずれ 9 > 単純ミス 8 (数詞5込み) 類語 6 > 多義語 5
	中級	類語 7 > 多義語 5 > 単純ミス 3 > ずれ 2
	上級	ずれ 4 > 類語 2 = 多義語 2
上級	初級	類語 1 = 多義語 1 = ずれ 1
	中級	ずれ 6 > 類語 3 > 多義語 1
	上級	類語 3 > ずれ 1

正用の初級に対する誤用のうち、特に目立つのは、数詞と関わるものである（80件のうち20件が数詞の誤用であるが、そのうち、単純ミスは16件である）。

- 1) 두년전에 [이 년] 말레이시아 [말레이시아]에서 만난사람들이다. 【나의 실패】
- 2) 나중 몇회나 [몇 번이나], 태풍이 접근하는 것 같지만 피해가 없는 것을 기원할 뿐이다. 【방재의 날】
- 3) 일의 양이 줄기보다 기분의 해방감이 커서 혼자 [한 명] 인간이 에고 [으로서] 독립해서 사는 기쁨을 느꼈어요. 【퇴직부터 15년을 되돌아보다】
- 4) 사람이 많이 모여서 먼 [긴] 시간 들어서야 [줄어서야] 해서... 【우소카에신지】

1) は、漢数詞と固有数詞の使い分けの誤用、2) は、회と번における助数詞の誤用、3) は、「一人」にあたる 혼자もしくは 한 명의使い分けの誤用である。1) は、4) における「長い時間」という表現を単に 긴ではなく 먼 と書いた単純ミスとして、分類することができるが、2) は、類語として、3) は、多義語として分類するのが妥当であろう。とりわけ、初級及び中級における単純ミスが多いのが特徴である。

- 5) 유후인은 오이타현에 있는 온천과 멋진 선물가게가 있는 일이며 [것으로] 유명이다 [하다]. 【유후인】
- 6) 강 벼랑의 [위에] 서고 있는 [서 있는] 집이나 다른 곳에서는 본 것 [적]도 없는

… 【드라이브】

7) 난 일을 하는 것이[편이] 충실한 생활을 할[보낼 수 있을] 것 같아요. 【시간】

5) ~7) は、日本語の「こと」が、것、일、적、말という多義的意味として使われることへの理解不足から生じた誤用である。5) は、것 (事) と 일 (出来事) の使い分けの誤用、6) は、「~したことがない」をそのまま直訳した誤用、7) 「~する方が」における「方」の回避として現れた誤用であると思われる⁹。

8) 간후를[개호를] 위해 잠시 중단해서[중단해서] 3년전에[전에] 또[다시] 시작했어요. 【퇴직부터 15년을 되돌아보다】

9) 밑의[작은] 아들은 아버지가 거의 집에서[에] 없어서… 【친구들과 만남】

一方、8) は、또と다시における意味の似かよった類語の使い分けの誤用であり、9) は、兩言語におけるずれによる誤用¹⁰である。

10) 십육일은 티켓 추첨에 떨어지고, 친구에게[로부터] 물려주고[양보해서] 받은 [얻은] 티켓에서[으로]… 【요요기 콘서트】

ところが、多義語や類語の学習は、学習不足や教授法の問題だけではない。10) における물려주다の学習者の日本語訳は、「譲る」となっている。しかし、『国立国語院 韓国語-日本語学習辞典』で、「譲る」を検索すると、「내주다 - 넘겨주다 - 물려서다 - 물려주다 - 물리다 - 내드리다 - 대물리다 - 대물림하다 - 물려왔다 - 양보하다」の順で提示されているため、却って学習者の混乱を招きかねない。つまり、より使用頻度の高い単語を先に提示したり、コロケーションとして提示したりする工夫が必要であろう。

レベル別に誤用の分布を見ると、初級は、「類語38件 (31.93%) > 単純ミス33件 (27.73%) > ずれ24件 (20.17%) = 多義語24件 (20.17%)」で、中級は、「ずれ15件 (28.3%) = 類語15件 (28.3%) > 多義語12件 (22.64%) > 単純ミス11件 (20.75%)」で、上級は、「ずれ8件 (47.06%) > 類語7件 (41.18%) > 多義語2件 (11.76%)」で、全体では、「類語60件 (31.75%) > ずれ47件 (24.87%) > 単純ミス44件 (23.28%) > 多義語38件 (20.11%)」である。

11) 지금까지 타던 차가 뜻밖에 높은 사정했지만[(가격에) 매입되어서]… 【새로운 자동차】

今回の分析結果から、学習者は初級レベルの語彙（既習語彙）は積極的に使おうとするが、中上級レベルの語彙（未習語彙）は、できるだけ回避しようとする方略が用

いられたと考えられるが、やむを得ず使う際には、11)のように、日本語をそのまま直訳する方略が用いられる傾向が見られた(간후[개호], 비력[무력감], 출비[지출]など)。

5-2. 表現

表現の誤用は、主に対応する表現のずれや有無に関わる。誤用の形態は、下記の表12の通りである。

表12. 表現における誤用の特徴

	数	%
慣用句	23	31.51
受身	11	15.07
안/못	4	5.48
授受表現	3	4.11
間接話法	3	4.11
その他	29	39.73
合計	73	100

- 12) 편소[평소] 얼굴을 모으는[마주치는] 것이는[것이] 적은[적은] 사람들... 【우리 여름 휴가】
- 13) 출발이[춌발이] 코를 만지[닿는] 것 같아서 화상 하는[당할/입을] 것[걸] 걱정을 했어요. 【손자】
- 14) 저는 앉아 버리면 철망으로 잘 못봐서[안 보여서] 서서 봄을[보기로] 했다 【고등학교 야구】
- 15) 그곳사람한테[이] 가르쳐받고[알려 줘서] 무사히 도착할 수 있었다. 【보건교실】
- 16) 건강진단료[으로] 조기 발견할 수 있어도[서] 좋았다고 의사에게 했습니다[들었습니다]. 【남편의 수술】

12)における얼굴을 모으는[마주치는]のように、慣用句に関するものが23件であったが、慣用句をそのまま日本語訳した誤用が目立つ。そして、13)における受身と関連する表現が11件、14)における안と못の表現が4件、15)における授受表現(「～てもらう/いただく」)が3件、16)における間接話法が3件であり、その他の個別の誤用が29件であった。

- 17) 능숙하게 할 수 없어도 최후까지 달서하면 하고[달성하면 좋겠다라고] 생각하고 있다. 【친구들과의 만남】

- 18) 전학 코스를[가] 짧게 당하고[되어서] 겨우 서지 말고 걸면서[걸으면서] 보고 있는 만이었으니까[보는 것 뿐이라서] 짧은 시간에 끝나버렸습니다. 【사회과 전학】

しかし、中には誤用の原因が複雑なものも見られた。17) は、「やり遂げればと思う」をそのまま直訳した誤用であるか、それとも(으)면 좋겠다という表現の未習から起因した誤用であるか、定かではない。同様に18) も、만이다と뿐이다の使い分けの混同であるか、뿐이다という表現の未習から生じた誤用であるか、その判断が難しいものも見られた。

6. おわりに

本稿は、社会人韓国語中級学習者の作文に見られる誤用分析を語彙と表現に分け、各々の誤用の分布と形態について、定量的分析を通して考察した。

学習者の現段階の使用語彙や文型の習得状況の全体像を把握するため、『ハン検公式ガイド新装版合格トウミ』に基づき、正用と誤用の両方をレベル別に分類し分析した。

分析の結果、社会人韓国語中級学習者は、学習状況として初級レベルの誤用が目立つ。このことは、まず、社会人学習者としての学習動機や学習目標、学習期間の長さ、モチベーション、加齢に伴う学習能力の低下などが総合的に絡んだ結果だと考えられる。もう1つは、学習者は、積極的に初級の語彙・表現（既習語彙・表現）を使っていた結果、誤用が多く現れたが、語彙・表現レベルの高い中上級の語彙・表現（未習語彙・表現）はあまり使用していなかったということを表している。つまり、既習語彙・表現は積極的に使おうとするが、未習語彙・表現は回避しようとする方略が用いられたことである。ただし、やむを得ず未習語彙・表現を使う際には、日本語をそのまま直訳する方略が用いられる傾向が見られた。

本稿は、学習者の誤用だけではなく、正用と誤用の両方を照らし合わせてレベル別に分類し分析する方法を用いた。こうした分析方法は、学習者の中間言語としての発達段階の全体を俯瞰することができ、どのような誤りがあるのか、どのような方略が用いられるのか、さらに、学習者の方略によって生じる誤用の原因とは何かを究明する手立てとして有効だと考えられる。

今回は、紙幅上、意味論的誤用のみを分析対象としたが、今後、文法的誤用や語用論的誤用を含め、従来の大学生学習者との比較分析も進めていきたい。

注

¹ 김선효 (2009) は、日本と韓国のコーパスを用いて程度副詞の使用について調査した結果、韓国の国立国語院の現代国語使用頻度調査では、가장, 너무, 아주, 참の使用頻度が高いが、大阪大学の中級学習者コーパスでは、아주, 많이, 너무, 가장

- などの順で現れたとし、学習環境が語彙の使用に影響を与えるという。また、이지연 (2012) は、日本国内の韓国語学習者は、韓国国内の学習者に比べ、目標言語に露出されていない点、相対的に学習時間と接触機会が少ない点、学習段階が初級レベルにとどまっている点から算出する誤用内容が異なるという。
- 2 学習者の学習状況・習得状況の全体像を把握するためには、学習者から算出された中間言語のすべてをコーパス化して分析するのが最も有効であろう。ただし、誤用だけでなく、正用も含めたすべてをコーパス化するのは、膨大な費用と時間がかかる。
 - 3 自立語とは、「ある観念を表し、文中で単独でも文節を構成することのできる語をいう。名詞・代名詞・動詞・形容詞・形容動詞・連体詞・副詞・接続詞・感動詞の類」という (Weblio辞書)。
 - 4 慣用語とは、「複数の単語で構成された定型的な表現のこと。広義には「舌が回る」「歯を食いしばる」のように、この組み合わせでしか使われないという言葉の組み合わせを指す。狭義には、特に「雀の涙」や「足を洗う」「爪に火をともし」のように、字面から離れた特殊な意味を表現する言葉として定着した言い回しを指す」という (Weblio辞書)。
 - 5 金 (2017: 50) は、韓国語教育現場における外国人韓国語学習者に対する「分かち書き」の指導の現状および必要性が認識されるようになったが、日本人韓国語学習者の「分かち書き」に関する研究はあまり行われておらず、その指導法も十分に確立しているとは言えないと指摘している。
 - 6 高野 (2002: 20) は、「母語を使う場合と外国語を使う場合とを比べると、外国語を使う場合のほうが、思考への妨害は大きくなると考えられる。外国語を使っている最中は、高度な思考をしようとしてもできないのだから、「思考力が低下する」と言い直しても良い。」という。こうした理由から中上級レベルの語彙・表現が少なかったとも考えられる。
 - 7 즉예[으로부터]のように、誤用に対する正用が語彙ではなく助詞の場合が1件あった。
 - 8 同じ語彙が初級または中級の誤用として見られる場合がある。例えば、日本語の「よかった」は、다행이다, 좋았다, 잘됐다のように、多義語として認識されやすい。しかし、좋다가初級の語彙なのに対し、다행이다は中級の語彙であるため、初級と中級の両方の誤用として挙げられている。
 - 9 作文における日本語訳では、「私は仕事をする方が…」となっている。
 - 10 ずれには、対応する語彙の有無がさらに関係するが、今回は対応の有無は考慮せず、すべてずれとして扱った。

参考文献

印省熙 (2016) 「韓国語上級クラスの二つの作文資料による誤用分析の試み」『朝鮮語教育：理論と実践』第11号、pp.4-24、朝鮮語教育学会

- 金田一京助・佐伯梅友・大石初太郎・野村雅昭（編）（2011）『新選国語辞典』第九版、小学館
- 金珉秀（2017）「日本人韓国語初級・中級学習者における「分かち書き」の使用実態—助詞の前後を中心に—」『韓国語教育研究』第7号、pp.47-67、日本韓国語教育学会
- 高野陽太郎（2002）「外国語を使うとき—思考力の一時的な低下—」『日本語教育のための心理学』海保博之・柏崎秀子（編）、pp.15-28、新曜社
- ハンゲル能力検定協会（2016）『ハン検公式ガイド新装版合格トウミ初級編・中級編・上級編』ハンゲル能力検定協会
- 山田佳子・印省熙・宋美玲・白寅英（2018）「韓国語中級学習者における語彙の誤用—教室における指導法について—」『国際地域研究論集』第9号、pp.109-122、国際地域研究学会
- 김미옥（2003）‘한국어 학습자의 단계별 언어권별 어휘 오류의 통계적 분석’, “한국어교육”, 14-3, pp.31-52. 국제한국어교육학회
- 김민애（2006）‘한국어 학습자 오류의 분석 방법 고찰’, “한국어교육”, 17-2, pp.21-43. 국제한국어교육학회
- 김상수・송향근（2006）‘한국어 교육의 오류분석 연구 동향 분석’, “이중언어학”, 31, pp.1-33. 이중언어학회
- 김선호（2009）‘일본어 모어 화자의 정도부사의 사용과 오류 양상 - “아주, 너무” 를 중심으로-’, “한국어교육”, 20-1, pp.1-22. 국제한국어교육학회
- 김유정（2005）‘한국어 학습자 말뭉치 오류분석의 기준 연구’, “한국어교육”, 16-1, pp.45-75. 국제한국어교육학회
- 김정숙・남기춘（2002）‘영어권 한국어 학습자의 조사 사용 오류 분석과 교육 방법’, “한국어교육”, 13-1, pp.27-45. 국제한국어교육학회
- 김정은（2004）‘일본어권 학습자의 조사 오용 양상’, “한국어교육”, 15-1, pp.1-31. 국제한국어교육학회
- 유형선（2008）‘한국어 오류 유형의 분류에 관한 연구’, “한국어학”, 41, pp.357-380. 한국어학회
- 이정희（2002）‘한국어 오류 판정과 분류 방법에 관한 연구’, “한국어교육”, 13-1, pp.175-197. 국제한국어교육학회
- 이지연（2012）‘일본인 한국어 학습자의 조사 오류 분석 -시마네현립대학 학생들을 대상으로-’, “이중언어학”, 49, pp.175-197. 이중언어학회

参照サイト

- 『Weblio辞書』 <https://www.weblio.jp/>（検索日：20200911）
- 『国立国語院韓国語-日本語学習辞典』 <https://krdict.korean.go.kr/m/jpn/help?nation=jpn>（検索日：20200918）

付記

本稿は、第10回韓国文化学会研究大会（2020年10月24日、zoom開催）で口頭発表した内容に加筆修正したものである。貴重な御意見を下さった方々に感謝致します。また、作文作成に協力して下さいました方々にお礼を申し上げます。

要旨

社会人韓国語中級学習者の作文に見られる誤用分析を語彙と表現に分け、各々の誤用の分布と形態について、定量的分析を通して考察した。分析方法として、学習者の現段階の使用語彙や文型の習得状況の全体像を把握するため、『ハン検公式ガイド新装版合格トウミ』に基づき、正用と誤用の両方をレベル別に分類し分析した。

分析の結果、社会人韓国語中級学習者は、学習状況として初級レベルの誤用が目立つ。このことは、まず、社会人学習者としての学習動機や学習目標、学習期間の長さ、モチベーション、加齢に伴う学習能力の低下などが総合的に絡んだ結果だと考えられる。もう1つは、学習者は、積極的に初級の語彙・表現（既習語彙・表現）を使っていた結果、誤用が多く現れたが、語彙・表現レベルの高い中上級の語彙・表現（未習語彙・表現）はあまり使用していなかったということを表している。つまり、既習語彙・表現は積極的に使おうとするが、未習語彙・表現は回避しようとする方略が用いられたということである。ただし、やむを得ず未習語彙・表現を使う際には、日本語をそのまま直訳する方略が用いられる傾向が見られた。